

News Letter No.9

第7回 日本シニア小児科医連盟 総会・講演会 WEB開催のお知らせ 2021年4月16日(金)17:30~20:00

内容

1. 開催にあたり

代表幹事 衛藤 義勝

2. 第7回連盟会議について

第7回会長 伊藤 進

3.抄録

伊藤 進
衛藤 義勝

4.幹事名簿

開催にあたり

日本シニア小児科医連盟
事務局幹事 衛藤義勝

(財団法人脳神経疾患研究所/
東京慈恵会医科大学名誉教授)

第124回日本小児科学会が2021年4月16日~4月18日に国立京都国際会館で開催されるのに合わせ、16日(金)に第7回日本シニア小児科医連盟総会・講演会をWEBで開催させていただきます。

皆様宜しくご参加のほどお願い致します。

今回は香川大学 伊藤進会長に、ご退任後の活動を含め、色々なお話をして頂きます。また伊藤先生のご指名により、僭越ながら私も講演をさせていただきます。

どうぞよろしくお願い致します。

最後に、この日本シニア小児科医連盟会議を通じて、少しでも我が国の子どもたちの福祉、健康の増進並びに母子保健の向上に貢献できれば幸いです。

多くの皆さまのご参加をお願い致します。

第7回 日本シニア小児科医連盟 総会 & 学術会議

第7回 会長:伊藤 進 (香川大学 名誉教授)

第7回連盟会議開催にあたり

第7回会長 伊藤 進
(香川大学 名誉教授)

第7回日本シニア小児科医連盟会議の会長を務めさせていただきます香川の伊藤です。第6回の本会議に出席した折に、第123回日本小児科学会学術集会を徳島大学小児科の香美祥二教授が主催で開催されるということで同じ四国に居る私が第7回の本会議の会長をするように指名を受けました。学術集会の会場が神戸であり四国内でないので会場の確保等が困難ですので断りましたが、清野先生や衛藤先生がそれらの世話をなさっていただけということで引き受けました。四国という地域特性を踏まえたうえでの四国の小児医療の発展のために努力してまいりました私の生きざまを前座で話させていただいて、学問的な格調高いお話を衛藤先生にさせていただきますよう設定しましたのでご期待ください。

定年後も精力的に働いておられる皆様が小児科学会に参加される折に楽しいひとときを持てるような会議になったら良いと思っていますので、よろしくお願い致します。四国は神戸よりほど近く、気候も温暖で、各地に名所を有しております。ぜひこの際に、足をお運び頂けますと幸いです。

第1回から6回までの世話人・ご講演演者

第1回 世話人 衛藤 義勝
講演:安次嶺 馨、山城 雄一郎

第2回 世話人 清野 佳紀
講演: 清野 佳紀、中畑 龍俊

第3回 世話人 山城 雄一郎
講演:山城 雄一郎、吉岡 章

第4回 世話人 児玉 浩子
講演:児玉浩子、藤村 正哲

第5回 世話人 松石 豊次郎
講演:松石 豊次郎、仁志田博司

第6回 世話人 小泉 晶一
講演:小泉 晶一、横谷進



今回の会議は、ZOOMによる会議となります

【日時】 2021年4月16日(金)
17:30～20:00 (第124回日本小児科学会第1日目)

【アドレス】

<https://zoom.us/j/95444013988?pwd=bIRiZWdSaERTc1BsT3pwaXI DQjM0QT09>

ミーティングID: 954 4401 3988

パスコード: 688217



◆プログラム◆

17:30～18:00 総会
18:00～19:00 講演会

講演1 伊藤 進 (香川大学 名誉教授)
“私のキャッチコピー”

講演2 衛藤 義勝(一般財団法人 脳神経疾患研究所 先端医療研究センター)
“今、遺伝子治療はどこまで進歩したか?”

3. 第7回シニア小児科医連盟 講演抄録

講演1. 伊藤 進（香川大学 名誉教授）

“私のキャッチコピー”

第7回シニア小児科医連盟での講演にあたり何を話そうかと迷いましたが、人生で自分が思っていて何かしら役に立ったことを話すことにしました。皆様には、私の愚痴をいっているように思われるかもしれませんが。香川医科大学小児科学講座の教授になってから、キャッチコピーを作りそれを手段に何とか苦難を乗り越えてきましたのでそれを含めて定年退職後のことも話させていただきます。最初は、「楽しくなければ小児科ではない」です。教授になった時に、小児科はNICUと一般小児科と2枠の当直が必要でした。医局員にはこんな人数で当直はできませんとよく言われました。そのために小児科医をリクルートする目的で作ったキャッチコピーです。その後、医局員も増え何とか当直も回すことができるようになりました。次に、「命を助け、心を守る小児医療」です。心を守るには、命を助けないといけないので小児で一番死亡率の高い新生児を見る医師を香川でいっぱい作ることでした。そして、母子分離による弊害を防ぐために、母親が通える範囲内にその高度新生児医療をする施設を作ることでした。つまり、中規模集約化の発想です。人口100万弱の地域に、総合周産期母子医療センター2つと地域周産期センターが1つあります。これは、「こどもがいなくて未来はない」を含みます。産科医と小児科医のいない地域は、若い人がいなくなり、その地域ごと消滅します。一方、各々の病院で小児科が夜中働くのは、医学生から見ても非常に評判が悪い。地域の小児科医を増やすにはそれを改善する必要があります。そのために、香川県では日勤、準夜と深夜帯に分けて香川の小児科医が協力して小児医療を行っています。最後は、「小児の適正医療」です。これは、小児の未承認薬・適応外薬の解決のために用いました。現在でも、医療上の必要な未承認薬・適応外薬検討会の構成員として関与しています。定年退職後はキャッチコピーではありませんが、「年寄り厄介者か」がテーマとなっています。要らない子で生まれ、それなりに努力してきた私にとって、今は非常に気楽な状態で、厄介者にならないように年寄りでも何か役に立つようにと思ひ人生を過ごしています。定年退職時の望みは、年金をいただくこととこどもに面倒を見てもらうことでした。前者は可能でしたが、後者は不可能のため香川の官舎で過ごしています。火曜日は小児科外来のアルバイトを1日中、水曜日は小児科ポリクリ学生への講義、木曜日は研究の指導をしています。その他は、いつでもインターネットで飛んで来る相談への対応、論文と抄録の校正、論文の執筆や月1回の高松市の小児慢性特定疾病審査会委員長として働いていますが、主要な仕事は官舎全体の清掃と花の世話です。このリズムは、定年後続いていますが、フレイルやロコモティブ症候群になり何時厄介者になるか不安があります。そうなっても、頭が働くようにして何か役になることをして厄介者を回避したいものです。

【演者 ご略歴】

2014年 香川大学 定年退職

2014年～現在 香川大学名誉教授、香川県地域医療支援センター参与、高松市小児慢性特定疾病審査会委員長、香川大学小児科学講座研究協力者、香川大学非常勤講師

講演2. 衛藤義勝

（一般財団法人 脳神経疾患研究所 先端医療研究センター長・東京慈恵会医科大学名誉教授）

“今、遺伝子治療はどこまで進歩したか？”

最近、様々な遺伝病で遺伝子治療の成功例が報告され始めた。1990年、米国のNIHで先天性免疫不全症（SCID）の遺伝子治療が発表された。1995年、北大で初めて日本で免疫不全症の遺伝子治療が報告され、ほぼ30年経過した。この間、1999年アデノウイルスベクターで治療された尿素サイクル代謝異常症（OTC）患者の死亡例が報告され、2002年にはレトロウイルスベクターで遺伝子治療されたSCIDの2名の患者がフランスで白血病になり、遺伝子治療は10年前まで暗黒時代であったが、2008年頃から副腎脳白質変性症（ALD）、異染性脳白質変性症（MLD）などex vivoの遺伝子治療の成功例が報告され始め、2012年はリポタンパクリパーゼ欠損症の初の遺伝子治療薬が発売された。その後、遺伝病では遺伝性盲、免疫不全症、最近では脊髄筋萎縮症（SMA）、タラセミアなどの遺伝子治療薬等9品目が商品化され、現在更に50種以上の遺伝性疾患の遺伝子治療の成功例が報告されている。又、白血病の遺伝子治療薬、CAR-T細胞治療（キムリア）薬が、我が国でも承認された。SMAは単回治療が2.3億円という高額が治療費であり、今後多くの超高額遺伝子治療薬が出てくることにより、治療薬の対経済効果が問われる時代となった。遺伝子治療の効果はiPS細胞の治療の臨床応用を抜きはじめているが、将来的な安全性の担保はまだ明らかでない。又、最近では遺伝病を個人の遺伝子から根絶するための、受精卵、或いは精細胞への遺伝子治療が編集遺伝子治療の手法を用いて研究されている。我が国でも受精卵への編集遺伝子治療は患者への応用を厳しく禁じるが、基礎研究での研究を進める為のガイドラインが出来た。この間、中国で、タラセミア患者受精卵或いはHIV患者の受精卵への編集遺伝子治療により、拳児例が報告され、衝撃的ニュースとなり、強い批判を浴びた。世界の遺伝子治療学会或いは遺伝学会から受精卵、精細胞への応用に関して、臨床的遺伝子治療への厳しい編集遺伝子治療に対するメッセージが出された。今後悪用されれば、デザイナーベビーの誕生等ヒトでの応用はヒト科人種の根本的改造人間を作る可能性まで起こりうる技術であり、且、神を冒瀆する技術をヒトは得て、パンドラの箱を開いてしまった。今後厳しいガイドラインの下で、癌、遺伝病等多くの疾患での根治治療に役立つことを心から願う。

衛藤 義勝	(財)脳神経疾患研究所先端医療センター 東京慈恵会医科大学名誉教授
青木 継稔	東邦大学 名誉学長 名誉教授
浅見 直	福祉法人長岡療育園
朝山 光太郎	東京家政学院大学健康栄養学講座
安次嶺 馨	沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団
阿部 敏明	あしかがの森足利病院
雨宮 伸	埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷
荒川 浩一	群馬大学大学院医学系研究科
有阪 治	那須赤十字病院
飯沼 一宇	認定NPO法人 子どもの村東北
石川 豊	下関市医師会副会長・石川ファミリークリニック
泉 達郎	独立行政法人国立病院機構七尾病院小児科
市川 家國	信州大学
伊藤 三吾	篠原病院
伊藤 進	香川大学医学部小児科学講座
井上 謙吉	医療法人 日吉いのうえ小児科
猪股 弘明	いのまたこどもクリニック
伊予田 邦昭	福山市こども発達支援センター
岩田 力	東京家政大学
上田 一博	医療法人三生会 みちがみ病院
植田 浩司	
植地 正文	東京福祉大学社会福祉学部
内山 聖	新潟大学 名誉教授
衛藤 隆	東京大学名誉教授・大阪教育大学客員教授
江原 伯陽	赤ちゃん成育ネットワーク事務局エバラこどもクリニック
遠藤 文夫	くまもと江津湖療育医療センター
大澤 眞木子	東京女子医科大学名誉教授
大関 武彦	浜松医科大学 名誉教授
太田 孝男	琉球大学大学院医学研究科育成医学講座
大野 耕策	独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院
岡田 知雄	神奈川工科大学応用バイオ科学研究部栄養科学生命科学科
岡田 眞人	聖隷福祉事業団 法人本部
小川 實	小川クリニック
小田 慈	岡山大学名誉教授 新見公立大学副学長
加我 牧子	東京都立東部療育センター
門田 正担	春野うららかクリニック
金子 隆	すずき小児科
河 敬世	大阪府立母子保健総合医療センター
衣笠 昭彦	京都府立医科大学地域保健福祉行政システム学
熊谷 公明	横浜総合病院 小児科
黒川 徹	誠愛リハビリテーション病院
桑原 正彦	桑原医院
小池 健一	JA長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院
小泉 晶一	小泉クリニック
神津 玲子	神津小児科医院
河野 齊	福岡徳洲会病院
河野 陽一	タムス浦安病院
児玉 浩子	帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科
小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校

近藤 直美	平成医療短期大学
七種 啓行	さいくさ小児科
齋藤 加代子	東京女子医科大学
坂口 祐助	坂口こどもクリニック
佐々木 望	埼玉医科大学 かわごえクリニック
重松 陽介	福井大学小児科
城 宏輔	すずき小児科
白幡 聰	北九州八幡東病院
新宅 治夫	大阪市立大学大学院医学研究科「障がい医学・再生医学寄附講座」
杉江 秀夫	常葉大学 浜松キャンパス 保健医療学部
杉本 徹	滋賀県済生会看護専門学校
鈴木 順造	(公財)福島県保健衛生協会 / 福島県立医科大学名誉教授
星加 明德	北新宿ガーデンクリニック
清野 佳紀	大阪病院
関口 茂	せきぐちクリニック
高嶋 幸男	国際医療福祉大学大学院教授 福岡/大川キャンパス
高田 五郎	仙台オープン病院
高橋 弘昭	千葉市療育センター
高橋 幸博	奈良県赤十字血液センター
高柳 正樹	帝京平成大学健康医療スポーツ学部
武谷 茂	久留米大学
立花 克彦	神奈川県赤十字血液センター
田中 敏章	田中成長クリニック
谷澤 隆邦	たにざわこどもクリニック
田原 卓浩	医療法人社団たはらクリニック
玉置 知子	兵庫医大遺伝
長 秀男	川崎市南部地域療育センター
土屋 滋	東北文化学園大学
津留 徳	つるのぼるクリニック小児科
寺崎 智行	吉備国際大学看護学科
戸苅 創	名古屋市立西部医療センター 新生児 医療センター
富和 清隆	東大寺福祉療育病院
富田 和巳	こども心身医療研究所
永井 利三郎	桃山学院教育大学教育学部(元大阪大学医学部)
中畑 龍俊	京都大学iPS細胞研究所
中村 肇	社会福祉法人 芳友
中村 安秀	甲南女子大学
新島 新一	順天堂大学練馬病院
西 美和	広島赤十字原爆病院小児科
仁志田 博司	東京女子医大
布井 博幸	愛泉会 日南病院
橋本 清	日本医科大学 名誉教授
濱岡 建城	宇治徳洲会病院 小児循環器・川崎病センター
浜崎 雄平	からつ医療福祉センター
早坂 清	
原 光彦	(元)東京家政学院健康栄養学科
廣津 卓夫	ひろつ小児科
福嶋 義光	信州大学
福永 慶隆	日本医科大学

藤村 正哲	大阪市母子医療センター
船戸 正久	大阪発達総合療育センター
古川 漸	実践女子大学保健センター
平家 俊男	兵庫県立兵庫総合医療センター
別所 文雄	日本医療科学大学保健医療学部
保科 清	山王病院小児科
細谷 亮太	聖路加国際病院
堀内 勁	聖マリアンナ医科大学 名誉教授
松石 豊次郎	聖マリア病院 小児総合研究センター・レット症候群研究センター
松尾 雅文	神戸学院大学 総合リハビリテーション学科
松平 隆光	日本小児科医会
眞弓 光文	福井大学
丸山 健一	群馬県立小児医療センター
水谷 修紀	東京医科歯科大学/川崎市北部地域療育センター
南 武嗣	みなみクリニック
宮田 晃一郎	重症障害施設オレンジ学園
麦島 秀雄	川越予防医療センター・クリニック
村上 睦美	東京都予防医学協会 保健会館クリニック
村田 光範	和洋女子大学保健センター
森川 昭廣	社会福祉法人希望の家 北関東アレルギー研究所
山口 洋一郎	やまぐち小児科
山城 雄一郎	順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座
山野 恒一	四天王寺和らぎ苑
山本 正士	社会福祉法人慈愛会医療福祉センター聖ヨゼフ園
山本 仁	聖マリアンナ医大 小児科
横田 俊平	フジ虎ノ門こどもセンター
横谷 進	福島県立医科大学 甲状腺・内分泌センター
横山 隆	医療法人 横山小児科医院 シルバー人材
吉岡 章	奈良県立医科大学
芳野 信	久留米大学高次脳疾患研究所
脇口 宏	高知地域医療支援センター

お悔やみ

2019年1月以降2021年1月までに亡くなられた幹事の先生方は次のとおりです。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

柳澤 正義先生(元東京大学小児科教授・国立成育医療研究センター名誉総長)
 松井 陽先生(元筑波大学小児科教授・国立成育医療研究センター元院長)
 浅野 善造先生(藤田保健衛生大学教授)

